

## 女子部

### この2年間の取組みについて

#### 女子部部长 更科幸一

2020年から始まった新型コロナウイルスへの対応は、その後も続き、2021、22年度は国内感染者数の増減や、徐々に解明されたウイルス特性、またウイルス変異(弱毒化)等を鑑みながら学園内での対応を生徒と教師が共に考え実施してきた。特に2022年度は徐々に対面での学校生活に戻った。

2021、22年度は、コロナウイルスの特性、感染予防の方法その他、徐々に対策の選択肢が出てきてはいたが、感染者の増減は続き、「もどかしさ」「葛藤」「苦しみ」を生徒、教職員、保護者皆が感じながら、様々な行動をあきらめつつ、でもあきらめずに過ごした2年間だった。特に自由学園で大切にしている実学的なもの、本物を見て学ぶことなどは、感染の危険性がある中で何をどのように実現させていくかを考え続けた2年間だった。

一方、特に2022年度は徐々に対面での生活が実施できるようになり、それまでコロナ禍により他者を意識できないシステムにいやおうなく直面せざるを得なかったところから、温かく、優しさの中で他者を意識する大切さは学べた。

また、対面の生活ができるようになってきた中で、コロナ禍で改善されたことが再び後戻りした事例もある。たとえば、生徒の中で「仕事」と呼ばれている、自治生活には欠かせない各種の働きについて、体調が悪かったり、事情があって参加できないメンバーに対し、きつく接してしまうことなど、コロナ禍で良くも悪くも人と会えなくなった中では沈静化したことが再び問題となって表れた。「doing」(何かを行うこと)を重視しすぎるのではなく「being」(そこにいることそのものが認められる)を大切にできないか。特にキリスト教を土台としているので、誰もがその存在を大切にされる学校を目指したい。

#### 1. 中等科・高等科の生活について

##### 【本鈴】

2021年度のカリキュラム改革に伴い、本鈴の時間は同年4月よりそれまでの7時50分から8時に変更した。

##### 【授業】

2021年度からは基本的に対面授業を再開した。濃厚接

触者などの理由で登校できない生徒はZoomで授業を受けた。

##### 【礼拝】

2020年度までは、礼拝はオンラインで、自宅で視聴、コロナ感染状況が落ち着いてきてからは登校して教室でZoom視聴の形をとっていた。2021年11月12日からは2クラスのみ講堂に集う形に移行した。2022年度からは全クラスが講堂に集えるようになった(マスク着用)。讃美歌は1番のみ伴奏つきでの黙唱、またはコアグループによる斉唱など工夫をしている。

##### 【食事】

2学年のみ食堂、他は各教室で食べる形を継続した。

##### 【寮生活】

コロナ禍のため2020年度4～8月は全面閉寮とした。同年8月24日から本鈴を大幅に遅らせて登校を再開、寮も同時に再開した。この再開時から、居室内はマスクを外してもよい(任意)としている(同室者は家族と同等扱いとなるため)。そのため、罹患者が出た場合は、同室者は「濃厚接触者」となり隔離を行った。食事は、2021年3月までは1テーブルに同方向を向いて2人ずつ着席して食べていたが、21年4月より、部屋ごとにテーブルについて黙食、食べ終わったらマスクをして話ができる形に移行した(9時本鈴となったため、食事を1回で済ませる必要があり、この形をとった)。その後2023年5月にコロナが5類となってからは黙食もなしとした。

##### 【広報】

2021年度から、生徒がこれまで以上に広報活動に参加

するようになった。学校説明会でプレゼンテーションを担当したり、受験希望者と生徒が自由に話せる「生徒とないしょ話」という企画を行ったりと、生徒がより主体的に取り組む機会が多くあった。

その一例として、2022年5月29日には、「生徒が作る学校説明会」を実施した。前年度の8月から有志の高等科2年生30名が男女一緒に準備を開始した。イベント運営をされている卒業生に企画の立て方から香盤表の作り方で、イベント企画・実施のノウハウを学び、それを活かしてSNSを利用した広報活動を行ったり、問い合わせに自分たちで対応したりと、全て生徒が中心となって準備を進めた。当日は「1日学園生体験！」をテーマに、学内ラリーや大芝生での大運動会、部活体験などを行い、約130名が来校された。参加者した小中学生の保護者からは、「生徒たちだけで運営されていて驚いた」、「生徒たちの生き生きとした姿が見られた」という感想を多くいただいた。生徒たちも、ゼロから企画を作り上げたという大きな達成感と、学びを得られた。

このように、広報活動に生徒が参加することで、受験希望者は生徒目線のよりリアルな学園生活の様子を知ることができ、出願を後押しするきっかけとなっている。また、生徒たちも、広報活動に主体的に参加することで、自分たちの生活を振り返り、自らの言葉で学園生活の魅力や現状を伝える機会となっている。これからも、生徒たちの姿を通して学園の魅力が伝わるような広報活動を展開していきたい。